社会教説番外編　**広島教区**代表者**会議**に**向**けて

共同体の識別（Discernment in common)

何を私たちの課題として、進むべき方向として選んでいくのか。
私たちの使命はなんであるのか。

共同体の識別とは

1　キリスト者の共同体メンバーが、
2　その共同体が直面する状況、出来事を、
3　自己の生活の中核となっている信仰体験に照らしあわせて考察し、
4　その結果をわかちあうことによって、
5　その共同体に対する、いまここでの神の呼びかけを見分け、それに応えてゆこうとする
6　共同体としての努力である。

『共同体の霊的識別』中井允著

広島教区代表者会議に向けて
助けになるように
フランシスコ教皇の「教会の識別のイメージ」

イエズス会のUAPs(普遍的使徒職の方向づけ）を参考に

フランシスコが総会に与えた共同識別のイメージ

フランシスコが訪れて話してくれたことで36総会（2016）の流れが大きく変わった。

- ヴェネツィアに滞在中、初期の会員たちは～多くの要請に応えるために散らばっていた。だが、ちょうどその頃、彼らは一つのグループをなしているという体験を共有した。

聖霊の導き

- 「葉て、頼そる間ちそ会いし言得信、戻月う程、てまのをなへちヶる過みきりらンき点立数いの恵生なり）かョ大原へ。て別るでによコシりの践たっ識いルう紙スーよち実し合同てべよ手シレ、たのまち共れレくのンピは私別じかはまのづ長ラス会、識感分ち含て気総フン総て同ををたに全に（皇イ６っ共性験私ののみ教ら３もて要体、も体恵か第をし必のにの全るた。」
- イエズス会総会、ある学校での選び、CLCの例

Universal Aposotolic Preferences
(イエズス会使徒職職全体の方向づけ）

四つの方向づけ

- A 霊操および識別を通して神への道を示すこと
- B 和解と正義のミッションにおいて、貧しい人々、世界から排除された人々、人間としての尊厳が侵害された人々とともに歩むこと
- C 希望に満ちた未来の創造において若い人々と共に歩むこと
- D「ともに暮らす家」（地球）への配慮と世話を協動して行うこと

方向づけとは（Preferences)

- これから10年間の全ての使徒職に向けられた「イキイキ」とした方向性。「何をするか」ではなく「どのようにするか」にインスピレーションを与えるものである。→「個人的」「共同体的」「組織的」回心を伴う
- 固定された使徒的目標や行動を設定するのではなく、聖霊の促しに従う方法」
- 進むべき方向、呼びかけであり、優先順位（あることが他のものより重要）ではない

方向づけという概念の持つダイナミズム

- 意識や、祈りの中に置いていると少しずつ統合されていくのを感じる
- Doing ではなく、アイデンティティ（being)としての方向づけであるから、生き方の回心へと促される
- 選びの基盤にいつもこの四つがある感じ。

各共同体
でどのように深めていくのか。

- 焦って進めなで、少しずつ時間をかけながら
- すでに行っていることを当てはめるのではない
- 現在行っている計画を承認していくチェックリストにするのではなく、今までに行ってきた活動も少しずつ変容していく。
- そのために、仲間たちと霊的会話をする機会を持つ。

共同識別のために大切にすること（『ラウダート・シ』、教皇の平和メッセージに応えるために）

共同体の識別のための前提条件

- 各自が準備の中で、ラウダト・シ、教皇のメッセージを理解しておくこと
- 心の自由
- 仲間に対する信頼
- 神の時に対する委託（すぐに答えを出そうとしない）
- 祈っていること（霊の動きへのセンス）「決定案に反応する自分の心の動きを平静ながめ、その動きが、どこから来るのか、神からのものか、自我、わがまま、あるいは、恐れからくるものか、確かめるための心のゆとりがなくてはならないのです。」
- ときのしるしを見ていること
- 霊的会話のセンスー相手に耳を傾けること

審議の中で必要なこと

「共同体の霊的識別のこの段階で新しく得られる事実は、各自の心の中での聖霊の動きです。聖霊は一人ひとりの心の中で、それぞれ異なった形で働かれるので、参加者が、各自の識別の結果をわかちあい、総合することによってのみ得られるような洞察が、共同体識別を通して得られるのです。」（中井允）

- 今までの歩みを感謝と共に振り返る
- 霊の動きに基づいてなされること（businessのための討議とは異なる）
- 個人で祈る時間、共に祈る時間を持つこと
- 霊的会話というわかちあい

・神からの慰めというしるし

神からの承認

うあてな（単とな
よでっすが（る異
つ論言、び。れは
持結が」喜すらと
をたロり、で得感
え得ウの和、ずが足
まらパみ平はえ満
がが聖のとる考な
心な、霊愛きなう
なめら「、で派よ
要努なるち験立う
必にるいわ体にいる）

議の審得るもた
は、考え生じるし
な考確信意りが一致
的にいうてあ見ません。。。
霊的いつでもの
る間とにの
あ人るれもの
認がでたじる
確定のま生じ
の選もから
らのもの、
か果善でも、
神結最のことか

ようがじので
どの同体生へ私
の共から体る「私」と
将来、この確信共同なのがあ
が、ういはでに単て立が
ても、しすとし対
てと出は一人
したし私の「た先行し
にし召し、「私ち」ます。
は、神がの平和るをのら
深みでの語に識別自かた
のこと霊で出す。「私
霊な真る召はでき
のこにのしなす。「私
は、「私た

霊的対話の実践（共同体の識別に取り入れよう）

教皇フランシスコの来日（あるいは、ラウダト＿・シ』を通して神があなたに何を語りかけていると思いますか。あなたの属する共同体はどこへ向かうべきでしょうか。

- 霊的対話のガイドライン

1．できるだけ注意深く、敬意を持ち、心を開いてそれぞれの人の話に耳を傾けよう

2．あなたが分かち合いたいと感じたことを、できるだけ短く、わかりやすく伝えよう。

３．沈黙の時間を急いで埋め合わせようとしなくてよい。

エマオへの道